

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 28 日現在

機関番号：32683

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2012～2015

課題番号：24520659

研究課題名(和文)スペイン語学習のめやす：学習到達度とその評価

研究課題名(英文)Guidelines for Spanish Learning. Achievement Levels and Evaluation

研究代表者

大森 洋子 (OMORI, Hiroko)

明治学院大学・教養部・教授

研究者番号：60233277

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,100,000円

研究成果の概要(和文)：スペイン語教育の新しい視点の導入を目指して、その指針となる『学習のめやす』策定を目指した。すでにあるヨーロッパ言語参照枠を研究したのち、主に第2言語として学ぶ学生にとって、特に入門期にとって日本語とは異なる表現形式等があることを考慮したより初歩的な内容を盛り込み必要があると考えた。なおかつ社会、文化項目を重視することで、社会のなかでいきる人間として適切なコミュニケーションができることを目標とすることも重要と考えた。特に12のテーマについて到達目標を明示することにより、評価を教師からもそして学生も共有できることを目指した。

研究成果の概要(英文)：We have established guidelines for Spanish learning that reflect new perspectives of Spanish language education. Specifically, in applying the Common European Framework of Reference for Languages (CEFR) to the teaching of a second foreign language in Japan, we elaborated the introductory level to incorporate rudimentary language content for our beginning level students and also introduced sociocultural elements into the curriculum to help students be able to achieve functional communication in society. For this purpose, we have developed explicit objectives for twelve communication themes so that evaluation from teachers and students can be shared.

研究分野：スペイン語教育

キーワード：カリキュラム 学習指導案 アクティビティ 評価

1. 研究開始当初の背景

平成21年度から平成23年度までの科学研究費科学研究補助金基盤研究(C)学習のめやす策定の試み(大学第2外国語を考慮して課題番号21520600)で整備された「スペイン語学習のめやす」について、その提示方法を巡って、様々な議論がなされた。12のテーマについての概略の中間発表のあと、より明確な形での提案が議論されていた。特に、現況におけるスペイン語教育で欠けている部分、必要とされることはなにかについて多くの議論がなされていた。コミュニケーション目標について、「話す」についてプレゼンテーション、やりとりと明確にわけ、初級レベルでどのような目標設定が必要かを議論し、初級レベル全体の目標、また12のテーマごとに、到達目標を具体的に提示することが必要とされると考えた。さらに、外国語活動を社会の1人の人間活動の営みと捉え、形式や機能だけにとらわれず、特に社会言語学要素、語用論的要素も重視した形で学習のめやすが必要であろうと考えた。

2. 研究の目的

「学習のめやす」が単なる初学者を対象とした学習項目の表ではなく、そこにより新しい視点から見たスペイン語教育、外国語教育を提唱すること、さらに到達目標を明示的にすることで、教育、学習の目標、アクティビティの意図をはっきり明示して提示し、授業での活用ができる具体的な案を提示することである。目標を明示的に提示することは、評価についても明確な記述が可能であり、それを目指すこととなった。

3. 研究の方法

月1回の「スペイン語教育研究会」での活動を中心に、12のテーマについてそれぞれ盛り込むべき項目等を提案し、メンバーで検討、さらに修正という作業を一つ一つ行なっていた。活動が進むにつれ、他言語との研究交流が活潑に行なわれ、情報交換の機会を持ち、他言語教育の状況、方針を知ること、さらに修正等をおこなっていた。

最後に、日本人メンバーによる日本語訳の検討、また全員で新しい視点にたった言語教育という点も議論をおこなった。

4. 研究成果

2015年7月に「スペイン語の学習のめやす」を完成させた。当初は、スペイン語での出版だけを考えたが、作成にあたっては他言語、英語、フランス語、ドイツ語など他言語教育との情報交換が必要であることを痛感し、日本語版も掲載することで、他言語教育からのフィードバックも受け取ることが可能になり、2015年度は機会があるごとに意見交換をおこなっている。それにより、言語を超えた活動がより活潑に行なうことが可能になり、それぞれの言語事情を踏まえた考

察、および外国語教育全体を視野にいれた考察もできるようになってきた。

また、12のテーマを設定し、それら1つ1つについて、到達目標を、読解、聞き取り、スピーキングをやり取りと発表に分けて提示し、それが評価の基準として、学習者にもそして教員にとっても明示的にできるような配慮をほどこした。現在は、さらにテーマごとのアクティビティ例作成にむけて活動が続けられている。

提示においては、従来の文法シラバス、機能シラバスからの問題点等も考慮することにより、中心的な項目を社会文化的な要素、語用論からの分野と考え、それを出発点として、言語機能、必要とする語彙、文法項目の順に配置することで、言語の学びが単なる言語形式のみの習得でないことを強調する姿勢を強調した。さらに、テーマごとに具体的な言語例を示すことによって、従来の文法シラバス等に基づいた教育法においても利用が可能となるような配慮をしている。同じような意図から、巻末に項目ごと(社会文化項目、語用論的要素、言語機能、文法、語彙)の索引をおいた。

最後に次の研究に繋がるように、1つのテーマを取り上げ、社会文化項目を出発点にしたアクティビティはどのようなものか議論し、例示することにより、次の研究課題への橋渡しとした。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計4件)

西村君代、渡部良典、木村護郎、クリストフ、原田早苗、市之瀬敦、安達祐子、Lisa Fairbrother (2012) ヨーロッパ共通参照枠(CEFR)から見た上智大学外国語学部学生の複言語能力自己評価 『上智大学外国語学部紀要』第47号、pp. 211-232。

Pilar Lago、落合佐枝、大森洋子
『スペイン語教育改善のためのアンケート調査』結果報告 スペイン語学研究 27. 2012 pp.23-41.

MORENO, Concha & OCHIALI, Sae. (2013). "Elaboraciones de un modelo de contenidos para la enseñanza de español en Japón. *La enseñanza de español como LE/L2 en el siglo XXI*. pp.515-522.

OMORI, Hiroko (2013) "¿Cómo explicar la polisemia de las preposiciones en el español en el lexicon generativo? Una propuesta para la enseñanza del español desde la teoría lingüística". *La enseñanza de español como LE/L2 en el*

siglo XXI. pp.543-550.

OMORI, Hiroko (2013) " los 'nombres verbales + suru" en japonés y los verbos de apoyo en español" La enseñanza centrada en el alumno. pp.731-738.

[学会発表](計 17 件)

LAGO, Pilar, 落合佐枝, 大森洋子
El alumnado universitario japonés de español actual y su actitud hacia el plurilingüismo” I Congreso de Internacional Nebrija en Lingüística Aplicada a la Enseñanza de Lenguas. 2012.9.29. 平成 24 年 Universidad de Antonio Nebrija (スペイン、マドリッド)

大森洋子(司会), 落合佐枝(パネラー)他
シンポジウム「日本のスペイン語教育の課題と展望- 今、教師としてできることは何か -」パネラー。10 月 23 日 平成 24 年 日本イスパニヤ学会 愛知県立大学 (愛知県 長久手市)

大森洋子
"tener lápiz" vs "tener un lápiz" 生成語彙論からのアプローチ. SELE スペイン語学セミナー2013 平成 25 年 神奈川大学セミナーハウス (神奈川県箱根町)

大森洋子
¿Cómo explicar la polisemia de las preposiciones en el lexicon generativo? Una propuesta para la enseñanza del español desde la teoría lingüística. Congreso internacional de ASELE. 平成 25 年 (スペイン、ハエン)

MORENO, Concha, 落合佐枝.
Elaboración de un modelo de contenidos para la lengua española en Japón” Congreso internacional de ASELE. 平成 25 年 Universidad de Jaén (スペイン、ハエン)

大森洋子
スペイン語教育、言語学の貢献 3. 7 平成 26 年 3 月 セルバンテス文化センター (東京都千代田区)

落合佐枝
「談話標識の así que について」 7. 26 東京スペイン語学研究会 平成 25 年 東京外国語大学 (東京都府中市)

大森洋子
日本語「VN する構文」とスペイン語支持動詞について 9.2 平成 25 年 SELE スペイン語学セミナー ヤマハ妻恋リゾート (静岡県掛川市)

大森洋子

Los verbos "nombres verbales" + "suru" en japonés y los verbos en apoyo en japonés. Congreso internacional de ASELE. 平成 26 年 Universidad Carlos III (スペイン、マドリッド)

齋藤華子, 落合佐枝, 西村君代, 大森洋子
スペイン語既習者調査の結果から - 大学スペイン語教育への示唆 - 日本イスパニヤ学会 10 月 11 日 第 60 回大会 平成 25 年 大阪大学箕面キャンパス (大阪府箕面市)

齋藤華子, 落合佐枝, 西村君代, 大森洋子
スペイン語学習における高大連携の可能性. 獨協大学外国語教育研究所第 4 回公開講演会 11 月 9 日 平成 26 年 獨協大学(埼玉県草加市)

西村君代
「存在数量詞 algo/alguien/nada/nadie と alguno/ninguno de 前置詞句との共起とその選択について」東京スペイン語研究会 3 月 28 日 平成 26 年 東京外国語大学 (東京都 府中市)

大森洋子
動詞 hacer の多義性 SELE スペイン語学セミナー 8 月 28 日 ヤマハ妻恋リゾート (静岡県 掛川市)

大森洋子
La polisemia del verbo hacer. Congreso Internacional de ASELE. 9 月 16 日 Universidad de Granada (スペイン、グラナダ)

大森洋子
La enseñanza del español en Japón; Presente y futuro; Introducción. II Congreso Internacional sobre el español y la cultura hispánica en Japón 第 2 回日本スペイン語・スペイン語圏文化国際会議) 10 月 3 日 平成 27 年 セルバンテス文化センター東京 (東京都千代田区)

西村君代
“Sobre alguno/ninguno y alguien/nadie. Restricciones en su uso”, II Congreso Internacional sobre el español y la cultura hispánica en Japón 第 2 回日本スペイン語・スペイン語圏文化国際会議) 10 月 4 日 平成 27 年 セルバンテス文化センター東京 (東京都千代

田区)

西村君代

Factores semánticos y pragmáticos en el uso de *alguien/nadie* y *alguno/ninguno*, 韓国西語西文学会、高麗大学(韓国)12月5日 平成27年高麗大学(韓国 ソウル)

〔図書〕(計 4 件)

西村君代

『口が覚えるスペイン語 スピーキング体得トレーニング』(共著) 2012、三修社。

西村君代

『中級スペイン語 読みとく文法』2014、白水社。

高垣敏博、二宮哲、菊田和佳子、西村君代、(編集)平成25年 『スペイン語学概論』(3章執筆 西村君代、13章執筆大森洋子、14章執筆 落合佐枝) くらしお出版

MORENO, Concha, LAGO, Pilar, 落合佐枝、大森洋子 平成25年 発見! 大好き!! スペイン語!!! スペイン語文法からコミュニケーションへ

〔その他〕

ホームページ等

<http://gidetokio.curhost.com/estatutosJP.html> (スペイン語研究会のページ) 例会の議論等、また成果を公表している。

6. 研究組織

(1) 研究代表者

大森 洋子 (OMORI, Hiroko)
明治学院大学・教養教育センター・教授
研究者番号: 6023277

(2) 研究分担者

落合佐枝 (OCHIAI, Sae)
獨協大学・国際教養学部・兼任講師
研究者番号: 40534558

研究分担者

西村君代 (NISHIMURA, Kimiyo)
上智大学・外国語学部・准教授
研究者番号: 10365679

(3) 連携研究者

齋藤華子 (SAITO, Hanako)
清泉女子大学・文学部・准教授
研究者番号: 40338249